

## 2021年度 独創的研究助成費 実績報告書

2022年 3月 31日

報告者	学科名	ビジュアルデザイン学科	職名	准教授	氏名	風早 由佳
研究課題	竹久夢二のマザーグース翻訳を用いた小学校CLIL授業の展開					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	風早由佳	デザイン学部・准教授	英語教育・英米文学	総括、調査、翻訳分析、CLIL調査	
	分担者	野宮謙吾 柴田奈美 岡田和也	デザイン学部・教授 デザイン学部・教授 岡山大学・准教授	タイポグラフィ 日本文学 英米文学	タイポグラフィ分野分析 詩短歌分野分析 実践協力、STEAM助言	
研究実績の概要	<p>本研究では、岡山県邑久に生まれた竹久夢二(1884-1934)が翻訳したと考えられる英米童謡マザーグースの翻訳・翻案を明らかにし(①)、教育現場での活用法について検討(②)することを目的とする。</p> <p>①—1. 竹久夢二が、英米童謡を翻訳したことは先行研究において指摘されているものの[藤野(1985)、田二(2005)、田中(2004)]、その多くは、すでに発見されている翻訳の分析を様々な視点で考察するものであった。申請者はこれらの先行研究で発見されていなかった夢二によるマザーグース翻訳を新たに指摘し[2020年度独創的研究]、先行研究では重複や漏れが多く見られた夢二のマザーグース翻訳作品について整理した上で、対照表を作成した。</p> <p>特に、これまで出典が明らかにならなかった夢二翻訳の原典について、その挿絵を精査することによって原典となった作品を特定することができた。</p> <p>この研究成果について、日本比較文化学会中国・四国支部研究集会において「竹久夢二のマザーグース受容—挿絵を手がかりに—」と題して、口頭発表を行った。(2021年8月8日)</p> <p>①—2. 加えて、夢二の同時代詩人である岡山県出身の詩人、薄田泣菫の英米童謡翻訳を取り上げ、夢二の翻訳に与えた影響を考察した。この研究成果について、「明治大正期の英語圏童謡受容—竹久夢二と薄田泣菫の翻訳」と題し、JAILA 第10回全国大会において口頭発表を行った。この発表では、夢二は泣菫に、泣菫はクリスティナ・ロセッティに影響を受けて創作していたことを指摘した上で、具体的に影響を受けた夢二の翻訳と泣菫の翻訳を原典である“The North Wind Doth Blow”と比較しながら分析した。(2022年3月19日)</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>①—3. これら2件の口頭発表の成果をまとめて、日本比較文化学会誌に投稿した。日本児童文学黎明期である明治・大正期の日本において、夢二の自由で大胆な翻訳・翻案は、外国文化が流入し始めたばかりの日本の読者にとって七五調を基調とした受け入れやすいリズムで創作しつつ、その内容は幕末まで主流であった勧善懲悪的かつ教訓的な物語とは異なる明らかに英米児童文学の影響を強く受けた内容によって、日本の児童文学を生み出そうとしていたことがうかがえた。また“Who Killed Cock Robin”を取り入れた夢二童話においては、原典に対するキリスト教的解釈を読み取ることができた。この他にも、英米童謡を翻案した“Baa, Baa, Black Sheep”など、童謡のみならず童話においても夢二文学において英米児童文学が大きな影響を与えていたことを明らかにした。</p> <p>②—1. さらに、夢二による翻訳が CLIL 教育において有効な教材となり得ることを検討した。夢二の翻訳における日英比較を通して、英語学習を始める小学生が日英語の違いに着目しつつ、日英の歴史や文化への理解を深めることをねらいとして、教材の作成、提案を行った。特に、①夢二翻訳と原典の唄を用いた音楽活動への応用、①Scratch 等プログラミングソフトを使った夢二翻訳のストーリーの可視化、について、小学校 CLIL 授業に合わせた教材資料の作成を行った。</p> <p>岡山市、倉敷市の小学校での複数回の CLIL 授業の実施を予定していたが、コロナ感染状況の拡大により申請者による対面実施は中止とし、倉敷市小学校教諭による助言を受けながら教材の改訂を行い、小学校での実践は令和4年5月以降に実施することとした。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>風早由佳、「竹久夢二のマザーグース受容—挿絵を手がかりに—」日本比較文化学会中国・四国支部研究集会（2021年8月8日）【口頭発表】</p> <p>風早由佳、「明治大正期の英語圏童謡受容—竹久夢二と薄田泣菫の翻訳」JAILA 第10回全国大会（2022年3月19日）【口頭発表】</p> <p>風早由佳「明治・大正期の竹久夢二の童謡集にみるマザー・グース受容」『比較文化研究』【原著論文】（審査中）</p>